

【学会発表一覧(動物系)】

発表学会等	開催日時	演題	要旨	発表者(※:筆頭発表者)
1 日本貝類学会2019年度大会	2019年5月18-19日	沖縄周辺海域における深海性貝類の生息状況	ROV調査で確認された深海性貝類について、その生息状況を報告し、2017年と2018年に実施したガラボコス諸島における野生ジンベエザメの水中超音波画像診断と採血による生理学的調査についての発表。世界初となる野生個体から得た、子宮内の卵胞の発育や、血漿中のステロイドホルモン濃度の測定について報告した。	※真地拓生・比嘉俊輝・山城 篤・伊藤 元 ※Rui Matsumoto, Kiyomi Murakumo, Ryo Nozu, Jonathan R. Green, Simon J. Pierce, Chris A. Rohner, Alex R. Hearn
2 5th International whale shark conference	2019年5月28-31日	First ever observation of ovary in Galapagos whale sharks made using underwater ultrasonography.	Relationship between the water temperature and heart rate of captive whale sharks.	※Kiyomi Murakumo, Rui Matsumoto, Kelichi Ueda
3 日本動物学会九州支部会(第72回)	2019年6月1-2日	沖縄本島沖で採集されたサクラダイ科の種 Sacura parva	本郡沖沖にて日本初記録となるサクラダイ科の一種が得られたため、これを報告した。	※青田裕史・宮本 圭
4 日本動物分類学会第54回大会	2019年6月9-10日	日本近海から得られたハタ科イサナダイ属の色多型	日本産イサナダイ属魚類には形質により区別される4型が存在することを報告した。	※和田英敏・瀧能 宏・宮本 圭・本村浩之
5 第16回国際エンリッチメント学会	2019年6月22日-28日	自傷行為を行うイルカに対する環境エンリッチメントによるQOL改善の取り組み	沖縄島におけるタイマイの産卵状況と繁殖生態	※河津 勲・米須雅之・嘉島宗幸・井上尚志 ※比嘉 克・植田啓一・外間克也・植武浩司・鈴木健和
6 第3回野生動物保全繁殖研究会	2019年7月4-5日	希少爬虫類の公開型保全の可能性~クロワフトカゲモドキの事例~	希少種保全の普及啓発を目的とするネイチャーツアーを通じた、クロワフトカゲモドキの生息地公開型保全の取り組みについて報告した。	※植武浩司・山崎 啓
7 第25回日本野生動物医学会大会	2019年8月30日-9月1日	マダライカ(Stenella attenuata)にみられた非結核性抗酸菌感染を伴う増殖性皮膚炎	マダライカ(Stenella attenuata)の体表に認められた膨隆・陥凹と鏡壁を特徴とする患部を病理組織学的・微生物学的・分子生物学的に検査した結果、NTM感染の関与が強く疑われたので、報告した。	※曾川智子・植田啓一・山根暎恵・猪鼻真2・小峰壮史・渡辺友梨絵・倉田 修・和田新平・佐野文子
8 令和元年度日本水産学会秋季大会	2019年9月8-10日	テラピアの三倍体化と高水温による不妊化	高水温処理により作出した不妊テラピアの繁殖特性とその応用に向けた取り組みについて紹介した。	※野澤 了・中村 将
9 日本動物学会第90回大阪大会	2019年9月12-14日	板鰐類の繁殖統御に向けたオミクスデータの活用	板鰐類の血液トランスクリプトームから新規の繁殖状態判別バイオマーカーを特定した取り組みについて紹介した。	※野澤 了・村澤清美・松本理博・辰原香織
10 日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会	2019年9月18-21日	耳上の腕節をもつ底生性有櫛動物クラゲムシ類の分類学的再検討	ROV調査で捕獲したクラゲを含むクラゲムシ類について、触手輪の形態観察やDNAの塩基配列解析から、分類学的再検討を行った。	※和田菜花・三宅裕志・山崎健一・戸藤 祥・足立 文・真地拓生
11 第63回日本医真菌学会	2019年10月11日	国内のカマイルカ(Lagenorhynchus obliquidens)で確認されたEngyodontium album 皮膚疾患の1症	国内飼育カマイルカの皮膚生検で確認されたEngyodontium albumについて報告した。	※植田啓一・曾川智子・鎌ヶ江光・佐野文子・矢口貴志
12 第15回日本刺胞・有櫛動物研究談話会	2019年10月30日-11月1日	飼育クラゲの放精と精子の観察	飼育クラゲの水槽内での放精の様子と精子について報告した。	※谷本 都
13 日本動物園水族館協会第45回海獣技術者研究会	2019年11月6-7日	定置網に混獲されたザトウクジラの放獣	大型定置網に混獲されたザトウクジラの放獣方法と、その際に得られた情報について報告した。	※植武浩司・比嘉 克・小林希美・岡部晴菜
14 第30回日本ウミガメ会議	2019年11月15-17日	オキゴンドウの採乳トレーニング	飼育下オキゴンドウの母乳採取訓練を進めるうえで、搾乳器を使用せず乳首を突出させることで泌乳する新たな採取方法を発表した。	※比嘉 克・中村望里・曾川智子・植武浩司・植田啓一
15 第30回日本ウミガメ会議	2019年11月15-17日	海外からの来場者増加に対するショー運営の取り組み	ショー運営を行う際の、海外からの入園者増に対する安全対策や満足度向上の取り組みについて報告した。	※森本佑香・比嘉 克・三谷裕太・池島雄敏・植武浩司
16 第30回日本ウミガメ会議	2019年11月15-17日	沖繩島周辺のウミガメ類における胃腸誤飲の現状	沖繩島周辺で死亡漂着したウミガメ類が異物を誤飲していた割合等について報告した。	※笹井隆秀・前田好美・木野裕哉・真壁正江・真栄田賢・深田晋吉・小淵貴洋・小俣万里子
17 第30回日本ウミガメ会議	2019年11月15-17日	心血管性吸虫類に感染したアカウミガメ幼体の血液生化学値	心血管性吸虫類に感染したアカウミガメ幼体について、投薬により血液生化学値が改善し、治療が可能であることを報告した。	※前田好美・河津 勲・植田啓一・平井紗綾
18 第30回日本ウミガメ会議	2019年11月15-17日	タイマイの累代繁殖成功	タイマイの3世代繁殖に成功し、成熟年齢やサイズ、卵殻形成期間等を報告した。	※深田晋吉・真壁正江・真栄田賢・小淵貴洋
19 第30回日本ウミガメ会議	2019年11月15-17日	なぜタイマイは食性下を好んで産卵をするのか~卵卵温度の日内変動がタイマイの孵化および幼体の成長に及ぼす影響	タイマイについて、卵卵温度の日内変動が大きい場合、孵化率が低下するだけでなく、孵化幼体の成長が良くないことを報告した。	※高田光紀・三宅香成・河津勲・笹井隆秀・深田晋吉・小淵貴洋・真栄田賢・真壁正江・斉藤知己
20 第30回日本ウミガメ会議	2019年11月15-17日	アカウミガメ孵化幼体の一時保管が遊泳活性に及ぼす影響	孵化幼体を一時保管する場合、どのような環境下で保管すると脱出直後と同程度の遊泳活性が維持できるかを検討し、水中で保管と遊泳活性が低下することを報告した。	※高田光紀・三宅香成・河津勲・笹井隆秀・深田晋吉・小淵貴洋・真栄田賢・真壁正江・斉藤知己
21 第30回日本ウミガメ会議	2019年11月15-17日	卵卵温度の日内変動がアカウミガメの孵化および幼体の運動と成長率に与える影響について	アカウミガメについて、卵卵温度の日内変動が大きい場合、孵化幼体の泳力や成長率に負の影響を与えることを報告した。	※三宅香成・高田光紀・河津 勲・笹井隆秀・深田晋吉・小淵貴洋・真栄田賢・真壁正江・斉藤知己
22 日本動物行動学会第38回大会	2019年11月22-24日	飼育シロハイルカ(Steno bredanensis)におけるラビングの分析	飼育下におけるシロハイルカのラビング行動の詳細について報告した。	※永澤大輔・小林希美・岡部晴菜・比嘉 克
23 日本動物行動学会第38回大会	2019年11月22-24日	標識再捕獲で見えてきたキンノウエトカゲの成長と移動	キンノウエトカゲを対象に、標識再捕獲調査を行い、成長や移動距離について報告した。	※笹井隆秀・戸田 守
24 日本爬虫両棲類学会第58回大会	2019年11月23-24日	琉球列島におけるクロガシラウミヘビとクロボシウミヘビの外部形態	琉球列島に生息するウミヘビの2種について、外部形態を詳細に記載し、幼体と成体におけるボディパターンの違い等について報告した。	※藤島幹次・笹井隆秀・西澤秀明
25 日本爬虫両棲類学会第58回大会	2019年11月23-24日	セマルハコガメの幼体の生息場所	セマルハコガメの孵化幼体が野外で滞在する場所について、室内飼育にて得られたことを報告した。	※梶原菜菜・藤林真・亀崎直樹・笹井隆秀
26 日本爬虫両棲類学会第58回大会	2019年11月23-24日	タイマイにおける卵卵温度の日内変動の影響について	タイマイについて、卵卵温度の日内変動が大きい場合、孵化率が低下し、鱗式異常の発生率が上昇することを報告した。	※高田光紀・三宅香成・河津勲・笹井隆秀・深田晋吉・小淵貴洋・真栄田賢・真壁正江・斉藤知己
27 日本爬虫両棲類学会第58回大会	2019年11月23-24日	水際対策、効果あり? タイワンハブの施設内防除事例と疑似トロップの開発構想	なごアグリパーク内でのタイワンハブの防除事例および得られた生態学的情報を報告した。	※笹井隆秀・園儀一郎
28 World Marine Mammal Conference 2019	2019年12月9-12日	Occurrence of false killer whales in Ryukyu archipelago including Okinawa Islands, Japan.	沖縄島周辺海域におけるオキゴンドウの個体識別結果、分布、来遊時期について報告した。	※Nozomi Kobayashi, Okabe Haruna
29 World Marine Mammal Conference 2019	2019年12月9-12日	Estimating the trend in encounter rate of humpback whales in the recent years in the western waters of Okinawa (Ryuku) Island, Japan.	過去10年間のハワイ、アラスカ海域でのザトウクジラ遭遊率の急激な減少傾向と比較し、沖縄島周辺での遭遊率は減少しておらず、新生児を連れてメスクジラについては増加傾向にあることを報告した。	※Okabe Haruna, Nozomi Kobayashi, Naoto Higashi
30 World Marine Mammal Conference 2019	2019年12月9-12日	Endangered western North Pacific (WNP) Humpback whales in the Mariana archipelago: Local breeding habitat and links to other WNP breeding and feeding grounds	西部北太平洋で新たなザトウクジラの繁殖海域として確認されたマリアナ諸島周辺海域とその他の摂餌、繁殖海域との海域間交流の結果について報告した。	※Marie C. Hill, Amanda L. Bradford, Debbie Steel, C. Scott Baker, Allan D. Ligon, Adam C. U. Jo, Marie V. Acebes, Olga A. Filatova, Siri Hakala, Nozomi Kobayashi, Yukari Morimoto, Haruna Okabe, Ryoosuke Okamoto, Julie Rivers, Takayuki Sato, Olga V. Titova, Robert K. Uneyama, and Erin M.
31 令和元年度(公社)日本動物園水族館協会九州・沖縄ブロック飼育技術者研究会	2019年12月12日	リュウキュウスガモの飼育と成長	水槽内でのリュウキュウスガモの飼育状況とその成長条件に関して報告した。	※高野はるか・真地拓生
32 第112回土佐生物学会	2019年12月14日	アカウミガメ孵化幼体の一時保管が遊泳活性に及ぼす影響	孵化幼体を3日間空中で保管しても、脱出直後と同程度の遊泳活性が発揮されることを報告した。	※高田光紀・三宅香成・河津勲・河津 勲・笹井隆秀・深田晋吉・小淵貴洋・真栄田賢・真壁正江・斉藤知己
33 第60回日本動物園水族館教育研究会拍大会	2019年12月14-15日	保育園職員と創る未就学児専用動物観察会の実施事例	両種とも卵卵温度の過剰な日内変動は孵化幼体の泳力に負の影響を与える可能性があることが示され、卵を屋内で保管する場合や砂浜内で移植する場合は、日内温度変動の小さい場所で行うことが望ましい飼育動物を題材とし、幼稚園教育要領に則った未就学児専門の動物観察会について報告した。	※三宅香成・高田光紀・熊沢佳範・河津 勲・笹井隆秀・深田晋吉・小淵貴洋・真栄田賢・真壁正江・斉藤知己
34 第64回水族館技術者研究会	2020年1月30-31日	抜去および切断したオグロオトメイ尾棘の再生	刺傷事故の原因となるエイ類の尾棘を抜去および切断した場合の伸長時期を調べ効果的な除去方法を報告した。	※村上 貴・松本理博
35 第64回水族館技術者研究会	2020年1月30-31日	宿題調査報告 板鰐類の飼育について	全国の水族館における板鰐類の飼育および展示に関する取りまとめを報告した。	※当真英之
36 第64回水族館技術者研究会	2020年1月30-31日	ROVを用いたオニキボウボウの採集と飼育について	ROV調査の中で発見したオニキボウボウの採集と飼育について報告し、2018年のガラパゴス、2019年のセントヘレナで実施した、世界初となる水中超音波画像診断や採血による野生ジンベエザメの生理学的調査について報告した。この技術は今後、大型板鰐類の生理・健康状態を調べる上で、とても重要な手段であることを言及した。	※金子篤史・真地拓生・比嘉俊樹
37 Eastern Fish Health Workshop 2020	2020年3月23-27日	Diagnostic techniques used on free-swimming adult whale sharks, or, how to juggle while riding a bicycle underwater.	精巢から卵巣への性転換時におけるセルトリ細胞の動態を組織学的および免疫組織学的に観察しその細胞動態を報告した。	※Rui Matsumoto, Kiyomi Murakumo, Alex Hearn, Jonathan Green, Simon Pierce, Rhys Hobbs, Cameron Perry, ※Alistair Dove
38 令和2年度日本水産学会春季大会	2020年3月27-30日	雌性先熟魚ミツボシクエセンの逆方向性転換時におけるセルトリ細胞の動態	エコー検査を活用したトラサメの産卵周期同定と血中ステロイドホルモンの変動	※野澤 了・中村 将
39 令和2年度日本水産学会春季大会	2020年3月27-30日	エコー検査を活用したトラサメの産卵周期同定と血中ステロイドホルモンの変動	エコー検査を活用することでトラサメの血中ステロイドの変動と全卵周期の関連性が確認された。	※井上拓人・齋藤萌々子・池羽希理子・高木互村・齋藤清美・佐藤圭二・徳永幸太郎・小藤一弥・兵藤晋